

■審査委員長 講評

環境・設備デザイン賞は今年で3回目を迎え、多くの力作の応募が有った事は嬉しいことであった。

この賞は、より良い環境づくりを目指した設備デザインに贈られる賞であると考えるのがわかり易いだろう。

これまでの建築設備の概念を環境づくりの設備にまで拡張し、また地球環境をも視野にいれたものとして捉えると、新たな設備デザインの地平が見えてくるようだ。

審査にあたっては、機能やコストのみならず地球環境配慮や人間の感性も評価軸に加え、専門技術の優劣ではなく、生活者が快適に過ごせる環境をどのように提示しているかを大切に考えた。

審査員も設備や建築の専門家だけではなく幅広い分野のメンバー構成になっている。

審査は、まず応募書類による第一次審査により入賞作品20点を決定した。

第二次審査は公開し、入賞者のプレゼンテーションと審査員との質疑応答の後、設備器具・システムデザイン部門、建築・設備統合デザイン部門、環境デザイン部門の3部門のそれぞれに最優秀賞1点、優秀賞2点を決めた。

今年から設けられたBE賞は、会場の参加者の投票により決められたが、最優秀賞、優秀賞と重なり、審査員と会場の評価はかなり近いものであった。

この環境・設備デザイン賞は、優れた設備デザインをより多くの人々に判り易く発信することを目指しており、一般社会にも共感いただける賞に育っていくことを期待したい。

建築家
芦原太郎